

コーディネーター活動から見えてきた現状と課題について

シニア活動推進コーディネーターによる関係機関等への訪問活動の中で、

- ① 多くの機関が他の関係機関との連携を望み、シニア層の就労、社会参加等に対する期待が高い。
- ② 地域で社会参加活動をしているシニア層の情報と各関係機関が抱える課題(人材不足等)が結びついていない。(双方の情報を共有し結びつけるしくみが必要)

という現状が見えてきました。

また、それぞれの機関が抱える以下の課題等が浮かび上がりました。

就労

○シルバー人材センターの課題

- ・シニア層が増えているのに、人材・仕事が増えない。特に女性の登録が少ない。
- ・一方、更埴地域シルバー人材センターでの買い物支援など、独自で努力しているところもある。
- ・シルバー人材センターにいるコーディネートをする人材の養成が必要という声が多い。

○市町村の課題（雇用促進担当課からの相談）

- ・課題は見えているが、どのようにシニア層が仕事をしていく仕組みを作っていけばよいか、行政単体では難しい。様々な機関との連携が必要。

○障がい者関係機関との連携について

- ・障がい者支援の分野でも、日常生活を豊かにするという点でみていくと、福祉の制度やサービスだけでは限界がある。
- ・全く視点を変えた分野とも連携が必要。例えば、障害者が就労する際の支援をシニア層に補助してもらえらるような連携をしていきたい。また障がい者支援がシニア層の仕事(就労)にもつながる。

シニア層の就労についての成功事例

○くらすわ（養命酒のアンテナショップ）

- ・20～70歳のスタッフ採用。
- ・シニア層のおもてなしの精神にとんだ、例えば品の良い言葉づかいや気のきいた気配りができるシニアスタッフが強みとなり、自然と他のショップとの差別化ができている。
- ・スタッフのバランスのよい年齢構成により、シニアスタッフが今まで培ってきた、経験や能力、キャリアを活かしたショップ運営や接客のノウハウを自然な形で伝統継承していくシステムづくりを推進している。
- ・定年退職制度廃止によりハイクオリティの観光ホスピタリティーの提案につとめている。
- ・ピンピンキラリと輝いている現役シニアスタッフの活躍を魅力的に見せている。

社会貢献

○ソーシャルビジネスとしてのシニアの社会貢献

- ・ソーシャルビジネス的な、社会貢献的な視点とビジネスとはなかなかつながらない。また情報交換の場も少なく、お互いの分野で意識も少ない。
- ・シニア層の仕事をソーシャル的にしていくという点でも発展させていきたい。

○学校への支援

- ・社会貢献という点では、教育委員会が進めている「信州型コミュニティスクール」等と連携し、シニアが地域の住民として学校支援することも社会参加の選択肢の一つである。

(例) 小中学校の登山への支援

小中学校の登山が減ってきている現状。

シニア層がボランティアという形で一緒に登山を行うことも地域の学校の支援になるのでは。

○大学とシニアのコラボ

- ・大学も地域貢献をうたっている。学生も学校自体も地域に貢献するという雰囲気。
- ・シニアの持っている力と学生とのコラボができるのでは。

社会参加

○公民館活動

- ・シニア層に期待。公民館講座が地域の課題を解決する講座となるようすすめていきたい。
- ・プログラムを見直し、シニアが社会参加できるようなキッカケとなるような講座にしていきたい。
- ・シニアに働きかける機関としての関係機関同士の情報交換の場が必要。

○様々な「二毛作」の視点について

- ・元気なシニア層のイメージがあるが、逆にうごけなくなったシニア層には二毛作は関係ないということではない。

⇒ 健康の様子に応じたいろんなステージでの二毛作の視点が必要。

◎動けないシニア層に対して支援できることは何か

- ・居場所づくり(プラチナサロンなど)、防災、孤立防止、民生委員の見守りも必要。
- ・介護者に対する支援=ひとつの「二毛作」の視点。

テーマを絞り、課題解決への具体的な手法について意見交換を行い、「成功モデル」への糸口とする。

～意見交換のテーマ～

- | | |
|-------|------------------------|
| テーマ A | シニア層の子ども・学校支援について |
| テーマ B | 退職前のインターンシップ・人材バンクについて |
| テーマ C | シニア層の地域づくりへの参画について |